

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年10月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム昭ちゃんの家
所在地	鹿児島県志布志市有明町蓬原554番地6号 (電話) 099-475-2224
自己評価作成日	平成22年7月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4676900139&amp;SCD=320">http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4676900139&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年8月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした敷地にはゲートボール場があり、地域の方々が週2回ゲートボールに訪れる。夏休みは地域の子供達のラジオ体操の場としてホームを開放しており、子供達とラジオ体操をすることが利用者の楽しみにもなっている。院長宅が隣接し、毎朝、院長の訪問があることで家族の安心にもつながっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝、設置者である地域医療に力をそそぐ院長が来所し、利用者や職員と話をしたり時には相談にのったりしている。設置者、職員間の仲が良く、「地域と交流できくつろげる家」という理念も職員に浸透しており、敷地内のゲートボール場を開放し、夏休みには、子ども達のラジオ体操の場としてホームを利用してもらい日常的に地域とのつきあいを行うことにより、地域に溶け込んだホームである。

## ○職員を育てる取り組み

職員育成に力を注いでおり、段階に応じた研修計画があり、設置者があるときに応じた研修を行っている。職員の意識も高く、ホーム内研修であってもレポートを提出するなど質の向上にむけて研修に取り組んでいる。

## ○医師の受診支援

設置者である院長が毎日来所し、健康状態を把握し介護者へ細やかに指示を出している。介護者がある指示を基に介護することにより、入居者の健康維持につながり、家族の安心にもつながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、リビング、職員トイレに掲示してあり、朝礼時に唱和を行い、毎日理念の確認をするようにしている。日々のケアでも理念に沿った支援を心がけている。	理念には「地域と交流できくつるげる家」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容が盛り込まれている。理念を掲示するとともに、ホームだよりに掲載し家族とも共有を図っている。職員間では毎日の朝礼において唱和し、ミーティングで実践について具体的に話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のゲートボール場に来る地域の方々に声掛けし、ホームの催しに招待するなど積極的に交流を心がけている。	自治会に入会し、回覧版の受け渡し、清掃活動や催しごとに参加し、公園等へ散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。長期休み期間にはホームをラジオ体操で開放し、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホーム便りに認知症の勉強のコーナーを設けており、運営推進会議の会議出席者に配布し理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会長、行政職員などの参加を得て、2ヶ月に1回開催している。ホームの状況報告や地域との交流実績などの報告を行っている。なかなか活発な意見が出ず、今後はサービス向上に活かせるようにホームとして取り組みを強化していきたい。	2ヶ月に1回開催され、事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村との連携は機会をとらえて報告や相談など行い連携に努めている。生活保護の利用者もおり報告している。	頻繁に市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きやその他の機会に訪問し問題や事故や認定手続きなどの情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体拘束の勉強会や廃止委員会を通じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し研修を行い、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても職員で勉強会を行ったり、職員の行動などお互いが注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入・退居時に家族へ契約について説明する際は、理解・納得していただけるように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に意見要望箱を設置したり、面会時や電話などで話をする機会に意見要望を聞き出すように努めている。また、年1回記名式のアンケートを実施している。出された意見要望については運営者、管理者、職員で話し合い、運営に反映させている。	重要事項説明書に相談窓口を記載するとともに、家族との話し合いも定期的に開くなど家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が苦情などを把握した時には苦情処理受付簿や介護記録で他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回実施している職員会議やケース会議時に話し合いの場を設けたりし、職員の意見交換も行っている。	研修内容の要望を聞いたり、職員アンケートや希望休暇ノートを活用し、勤務体制などの話し合いをもったり、気軽に声をかけやすい雰囲気づくりに心がけている。また悩みがありそうな職員には個別面談を行い問題解決を図っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	院長が職員会議等にも出席され勉強会の資料を準備されたり、職員各自の意見をきいたりされ各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム便りにも「職員研修報告コーナー」の欄を設け研修参加者より報告文を掲載している。また、新規採用者は他のグループホームでの1日研修を行っている。段階に応じた研修計画も作成しており、各種研修会などの参加を支援している。外部研修は研修報告をして職員全員が情報と知識を共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会などに管理者、職員も参加して交流している。他のグループホームの訪問もあり、こちらから新規採用者の1日研修の場として他のグループホームでの研修もお願している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学を兼ね、心身の状態生活状況を把握する為事前面談を行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用契約を行う段階で、家族が不安に思われている点や、要望等も聞き、カンファレンス会議等でも不安解消に努めるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス会議等を通じて、家族と本人の思いを聞き入れ計画するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の話をよく聞きアドバイスを頂きながら、日頃の料理味付け、配膳等無理強いのない程度に行って頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等、家族とのコミュニケーションを図り、本人の毎日の様子、状態を伝え、家での様子を伺いながら何でも言って頂けるような関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力をもらいながら近所へのドライブ、友人との交流をすすめています。美容院は昔からの行きつけの所を利用する方もいます。	フェースシートや面談記録を活用し、利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるよう面会、電話の支援や、墓参りやなじみの美容院への買い物などの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶、食事時間等職員も輪へ入り、会話がはずむよう配慮しています。利用者同士へは、トラブルにならないように座席役割作り等利用者同士の関係が良好に保てるようスタッフが調整役の支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療が必要で退居となった利用者の場合は、お見舞いに行ったり、家族と話をする等関係継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動、表情などから本人の思いや希望などの把握に努めている。把握困難時は、御家族より情報を得たり、カンファレンスでの職員の気づきを出し合い介護へ反映できるようにしています。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、サマリーを参考にアセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有をはかっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、御家族の面会の時に話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズム（食事量・嗜好・睡眠・排泄パターン等）の把握を行い、行動や表情からの気づきを大切にし本人の「できる事」を1つでも多く見つけ全体像の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の思いや希望を聞き、職員からの気づきや意見をカンファレンスや日常のミーティング等を通して把握し、介護計画作成に活かしています。	本人、家族、主治医も参加した担当者会議を開き話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合い介護計画を作成することや実施記録に課題を記載することで、職員はすべての利用者の介護計画を意識し、日常の介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識し、書き方等も介護計画等と分けて記入し、工夫できていると思います。特変時等もわかりやすく誰が見てもその時の状態、様子等を記入するよう、一人ひとりがもう少し書ければよいと思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望者は、同法人のクリニックでリハビリや電気治療、定期的な健康診断が受けられる。また、毎朝開設者である院長の訪問があるので、健康状態の把握も随時できている。急な診療を要する場合は院長宅が隣地にあるので対応も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回消防訓練を行い、消防署、地域住民の協力を得たり、敬老会の行事等でボランティアや地域住民の訪問をして頂き、楽しむことができるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医についての説明、利用者、御家族の同意を得ている。急変や他科受診は基本的には御家族にお願いしているが状況によっては職員が同行する場合もある。	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めて決めている。設置者である院長が毎日来所し、健康状態を把握しているため家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人のクリニック看護師が午後から院長と訪問するので、その時に、日頃の医療面、健康管理等での助言対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設者である院長が医師会系の当直をされており、入院の手配はもちろん入院後の状態観察も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて御家族への話は行っているが繰り返し話す必要がある。全職員の方針の共有も再度行う必要もある。	重度化や看取りに対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。母体病院と24時間体制で連携がとられ本人、家族の安心感につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院長に救急時の対応の学習会、訓練等を行っている。日中、夜間等の対応マニュアルを作成し、実際に各スタッフが訓練し緊急時備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎年2回以上避難訓練を実施しており、地域住民にも協力を要請し訓練に参加もしていただいている。</p>	<p>夜間体制での避難訓練や消火訓練を行うとともに、非常災害時の必要な備品の管理を行い、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。地域住民には回覧板で理解を呼び掛けた結果協力して災害対策を行う体制が構築されつつある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行っている時は羞恥心に配慮し他者への配慮を心がけている。利用者の尊厳を守ることやプライバシーを損ねないような対応は入社時の契約書にもうたって、その重要性を周知徹底している。採用後も話し合いの中で管理者、開設者等が点検している。	玄関に方針が掲示され、利用者へ言葉かけは十分注意し自己決定しやすいよう配慮している。また、記録等は事務室の鍵のかかる棚に保管し外来者の目につかないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる生活の場面において利用者の希望や意見を尊重している。毎日の料理、入浴の希望、買い物の際の食材選び等取り組みを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが、あくまでも決まりではなく全体の目安である、その方一人ひとりに合わせた生活の流れになっている。スタッフの都合を優先させることなく柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみにおいては朝、入浴後等衣類や髪を整え、衣類等分かる方は本人に着る服を聞いて選んでいただいている。散髪も希望があれば予約していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いをいただき、準備から調理まで一緒に行っている。片付けもお手伝いいただき支援できている。	料理本を見ながら食事の希望を聞くなど食欲を引き出す工夫をしたり、自家菜園の旬の食材を利用し、配膳、下膳を一緒に行うことで食への興味を持ってもらうようにしている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の嗜好に合わせ、好みの味で摂取し易い様援助している。またその日の体調を考慮し一定量をなるべく確保し易い物で提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後手洗いうがいの時間を設けて職員付き添いの元口腔ケアが適切に行えるよう援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時でのトイレ誘導以外でも訴え時や、排泄チェック表を使用し、各個人の排泄パターンをつかみ、できるだけトイレで排泄できるように援助している。	排泄チェック表が時間単位で作成され利用者の排泄パターンを把握し、自立へ向け、オムツからトイレでできるように支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員で便秘に対する勉強会を行い理解を深め、各個人の体質（排泄パターンにつながる）を掴み、下剤に頼りすぎないように乳製品などの使用も行い3日以内に排便できるよう調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意思を尊重しながら、適時での入浴へのお誘いをして、気軽に入浴し易い環境を作っている。また毎日いつでも入浴できるように準備してある。	体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけのタイミングや入浴剤の使用など工夫し、気持ちよく入浴が楽しめる配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人、眠たくなるまで自由にゆっくりと過ごしてもらい、また、不安があり眠れないなどの時は付き添い声をかけるなどの援助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在処方されている定期薬を新しく処方される頓服薬など誤薬が起きないように各個人目通しを行い、服薬中の状態チェックなども、意識して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々であるように支援している。お手伝い後は感謝の言葉を忘れないようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	元気や体調等に応じ気分転換に散歩をしたり、病院受診や電気治療等組み外出していただいている。	ウッドデッキが設置され天気の良い日は外気浴が行われている。また、本人の希望に応じて買い物、ドライブ、墓参りなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある時は少額のお金を持ち買い物をしたりしていただいている方もいらっしゃる。御家族の協力、理解を得ている。 (なくす可能性がある事等)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は常識的範囲内の時間帯で希望のある時かけることができる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングにはソファやテレビ、テーブルも2カ所に設けてあり、利用者がそれぞれお気に入りの場所で過ごせるように配慮している。また、床材に竹を使用しており、柔らかい感触と温かみが感じられる。冬場の乾燥対策としては各居室に濡れタオルをかけて乾燥を防ぐようにしている。	敷地が広く外気浴に快適なウッドデッキが設置されている。共有空間には絵画や花が飾られ、リビングや廊下は思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。リビングは日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がただよい、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の気分に合わせて居場所が選択できるようソファを設置し天気の良い日はウッドデッキにて日光浴をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具を持ち込んでいただいたり、家族の写真を飾ったり壁画を貼ったりし工夫している。	家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて家具、椅子、ぬいぐるみなど馴染みのある物が持ち込まれ居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレなどに表札を付けたり個人の理解力を把握して分かりやすい目印を付けたりして配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 昭ちゃんの家

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない